第１回「千年未来塾」 概要

１．趣旨

宇陀市制 20 周年を契機に、人口減少・少子高齢化などの地域課題を踏まえ、短期的な施策検討にとどまらず、長期的な時間軸で地域の未来を考え続ける対話の場として、宇陀市出身でアメリカの医療分野で活躍される藤田浩之氏の提案で「千年未来塾」を立ち上げた。



行政のみならず、市民・若者・事業者・外部人材等が立場をえて対話し、地域の課題や可能性を共有しながら、次の行動になげていくことを目的とする。本会はそのキックオフとして開催したもの。

２．開催概要

日時：令和 7 年 1 月 25 日（日）13:30～15:30
会場：農と学びの共創拠点「VUTAI」 （宇陀市榛原下井足 79-1）
参加者：市民、中高生、事業者、行政関係者、議員等
主な登壇者：
藤田 浩之氏（医療・教育分野）、David Janes 氏（国際教育・研究分野）
宇陀市長 ほか

３．主な内容



（１）対話を起点とした地域構想形成（藤田 浩之氏講和より）

地域の将来像について、多様な主体（ヒト）が課題や可能性を共有し、「問い」を立てながら検討していく必要性が示された。

藤田氏からは、
・正解を用意してから動くのではなく、まず動きながら課題を定義していくこと
・分野や立場を越えた人の対話の積み重ねが、新たな発想や取組を生むこと
・小さな実践を重ねる中で地域の方向性が形づくられていくこと
などが示され、地域における構想づくりのあり方として、対話と実践を往復しながら進めていく事の必要性が共有された。



（２）若者・市民からの主な宇陀の課題

参加した中高生や市民から、
・移動手段の確保
・空き家・地域資源の有効活用
・情報発信の強化
・若者が挑戦できる環境づくり
など、地域の将来に関する具体的な提案・意見が出された。
若者自身が地域の未来に主体的に関わろうとする姿勢が見られた。

（３）宇陀の強み・可能性

参加者からは宇陀の強みについて、

・自然・歴史文化・薬草などの地域資源

・ものづくり企業や農林業

・国際的な教育連携

などが意見として出され、藤田氏からはこれら強みを外部視点と結び付け、地域価値として発信していく必要性があるという話が示された。

（４）「千年未来塾」の考え方

20 年・30 年といった短期ではなく、世代を超えた長期的視点で地域の未来を考えることの重要性が共有され、今後も継続的に対話を重ねていく場として「千年未来塾」の名称のもと実施していく事となった。

４．今後の方向性

単発のイベントとせず、市民・若者・外部人材が継続的に対話し、学び合いながら次の行動につなげていく場として複数回開催していく予定。